

第 46 回探鉱新技術分科会が以下の要領で開催されましたので、報告します。

記

第 46 回探鉱新技術分科会

日時：平成 27 年 6 月 18 日（木）15:30～17:50

場所：JOGMEC 虎の門本部 16 階 G 会議室

出席者：

（分科会委員）足立原、熊田、佐藤、水上、早稲田 以上 5 名

（オブザーバー）秋久國男・佐藤 まろみ・中水 勝・吉田開祐・豊島 梓・塚田康元・福成徹三
（JOGMEC）、鈴木 祐一郎（産総研）、松田文彰・橋本直明（三井石油開発）、山口温美（三菱
商事石油開発）、武田信従（地球科学総合研究所）、グエンビンティタイン（JX 日鉱日石開発）、
稲場 土誌典・相原悠平（国際石油開発帝石） 以上 15 名

（講演者）Dr. Hamed Sanei (Geological Survey of Canada)

計 21 名

議事：

(1) 分科会委員、活動内容の確認

今年度の活動内容、現在の委員名簿を確認した。

(2) 話題提供

題名：Advanced organic matter characterization for unconventional reservoirs

講師：Dr. Hamed Sanei (Geological Survey of Canada)

要旨：非在来型貯留層において、有機物が貯留層性状に与える影響は堆積盆や貯留層ごとに異なる。西カナダ堆積盆 Montney タイトガス層の貯留岩はシルトである。孔隙に含まれる有機物は液状および固体のビチューメンであり、現地性の有機物（ケロジェン）は存在しない。これらのビチューメンは、移動してきた油が熟成度の上昇により貯留層中で熱分解を受け、ガスを生成した後の残渣と考えられる。ビチューメンは孔隙の充填物としてタイトガス貯留層の性状を悪化させている。このことは、有機物が孔隙率や浸透率の向上に貢献していると考えられる多くの非在来型貯留層とは対照的である。液状ビチューメンはシルト粒子の表面をコーティングしており、オイルウェットな状態を作っている。固体ビチューメンは孔隙中の充填物となっており、内部にナノ孔隙を持つものと持たないものの 2 種類がある。両者の間に組成的な差はなく、その成因は不明である。

懇親会：9 名参加

以上

座長：森田（産総研）、早稲田（石油資源開発）